

2018今年の注目！企業・人物・製品・技術

SONORA 1.5倍の拡販へ

「耐刷性」「耐キズ性」を抜本的に改善

完全無処理サーマルCTPプレート「KODAK SONORA XJ」の拡販で大きな成果を挙げた昨年のコダックジャパン(藤原浩社長)。今年は、プロセスフリープレートの課題として指摘されてきた「耐刷性」「耐キズ性」の両方を抜本的に改善した進化バージョンを年初にも発表し、さらなるシェア獲得を狙う。一方、事業売却の発表から一転して継続となったPROSPERインクジェット事業、さらには新たな成長分野として期待されるパッケージ分野でも、新たな局面を迎えようとしている。今回、2018年の幕開けに際し、藤原社長にインタビューし、その具体的なソリューション展開について聞いた。

コダックジャパン 藤原浩社長に聞く

2割程度の効率改善が必要
要

SONORA XJの進化
バージョンが登場

「フリー」となる比較
的小規模事業所の採用が
多かったが、SONORA

「時代の変化」が加速
する中、印刷業界にはそ
れほど変化を感じない。
他の多くの業界では、猛
烈な勢いでビジネスモデ
ルが変化しているのに、
どうしてなのか。

完全無処理版「SONORA XJ」については、月
2万版使用する規模の印
刷会社様でも採用されて
おり、「全スケールの顧
客をカバーできる製品」
として自信が付けてきた
ところだ。

一般的に「パッケージ
は成長分野」という認識
が広がっているようにた
が、実際の統計を見てみ
ると、それほど伸びては
いない。たまたまは言っ
てもフレキシブル印刷機に投
資する動きは着々と進ん
でいる。それに沿った形
で製版装置「FLEXCEL
N Xシステム」や
材料「NXプレート」が

安定して伸びており、と
くに材料は、昨年度は対
前年比倍増と大幅な伸び
を示した。
また、drupa20
16で発表された水現像
タイプの「FLEXCEL
L ULTRANX」も
今年後半くらいには製品
化できるだろう。水現像
への期待が非常に大きい
だけに、早期の製品化を
目指したい。

AMインクジェットテク
ノロジーの存在もある。
ULTRASTREAMは、小さいサイズのドロ
ップを均一に落とし、
印刷されない部分に電荷
をチャージして、それを
抜き取るという技術。印
刷部分は電荷に影響され
ずに落ちてイメージを形
成する。この技術により、
インクサイズはstre
amテクノロジのおよ
そ1/3になり、各種の
用紙やフィルムに最高1
50m/分の速度で60
0×1800dpiの高
移動率で見ている。

過去の産業革命があ
ったように、私は現在
も100年に一度の経
済革命が起こっていると
思っている。もともと物
を作る「産業資本主義」
みたいなものが歴史的に
あって、その後「金融
資本主義」そして現在
はさらに「サイバー資本
主義」という時代に入
りつつある。

この好調の最大の理由
は、基本技術である「K
odak Press R
eady Techno
logy」により、印刷
時にオペレータが机上現
像を意識せずに通常のプ
レートと同様に印刷が開
始できる点で、そこに環
境保全、コスト、作業環
境改善といったメリット
が付加された結果だと考
える。さらに政府が掲げ
る「働き方改革」や「ダ
イバーシティ」といった
点でも貢献できるだろ
う。経営者目線から見
て、これを導入しない理
由は見つからないのでは
ないか。昔から「プロセ

一方、一部には「耐刷
性」「耐キズ性」に関す
る問題を指摘する方もい
る。そこでコダックは、
この両方の課題を抜本的
に改善したSONORA
XJの進化バージョンを
年初にも発表する予定で
ある。耐刷性については
1.5倍から2倍程度向
上し、耐キズ性について
は現象タイプのプレート
並みの性能に改善される
見込みだ。現在この部分
で二の足を踏んでいる顧
客の要求はほぼクリアで
きるレベルにまででき
ている。これが出ていると、
本当の意味で全アプ
リケーションをカバーで
きると考えている。

連製品を含めた協議を売
却候補先と進めてきた
が、ご存じの通り、結果
は事業継続となった。
事業継続の最大の理由
は、やはり引き合いが多
いということ。とくに日
本では非常に好調で、昨
年も機器や消耗品などず
べてを含めて5割増を達
成している。

「お客様の経営パート
ナー」を標榜するコダッ
ク。その最大の特徴は、
自前の技術で幅広いポ
ートフォリオの製品、材料
を提供できること。ソ
リューションのポケット
を沢山持つって、ワンス
トップで経営課題を解決
できる体制を構築してい
る。



具体的な言いつ、物を
開発・製造・販売するど
いつ、いわゆる物作りに
付加価値が付きにくく
なっているという。ま
た、消費者ニーズを
捉えて成長しているの
は、デジタルやアマゾン、
つまり物を作っていない
企業だ。
しかし、人の生活がさ
らにサイバー化し、物を

またまた無駄が多く、さ
らに過剰投資になってい
る業界であることも事
実。設備の稼働状況はお
そらく平均で30%程度だ
ろう。この部分で経営改
革を実践しないと、印刷
物が見直される時が来て
も経営的には厳しいま
ま。これら改革の必要性
は言うまでもないことだ
が、あと2割程度の効率
改善が必要だと見ている。

この新たな製品競争力
を考慮しても、今年は何
なくとも1.5倍の販売

PRINERGYはアナ
リティクス機能強化
TRENDSETTE
R/ACHIEVEシ
リーズ用オプション「M
CU(マルチカセットユ
ニット)」の新製品発表
会には、3日間で延べお
よそ200名が来場し、
好評を得た。
これまでTRENDSE
TTER/ACHIE
VEシリーズにはSCU
モデルがラインアップさ
れていたが、新たに加
わったMCUにより、最
大で480版(合紙込み
120版×2段)、さらに
2段追加で最大4段カ
セット、0.3ミリ厚プ
レートの場合のプレ
ートがセット可能になっ
たほか、本体にMCUをビ
ルトインする新設計を採
用したことで、CTPの
設置スペースを最大65%
削減。また、電気使用量
も最大で80%削減してい
る。

「お客様の経営パート
ナー」を標榜するコダッ
ク。その最大の特徴は、
自前の技術で幅広いポ
ートフォリオの製品、材料
を提供できること。ソ
リューションのポケット
を沢山持つって、ワンス
トップで経営課題を解決
できる体制を構築してい
る。

「五感」で価値を生む印刷 幅広いポートフォリオでサポート

唯一のフルオートモデ
ルとして他に選択肢がな
かった四六全判対応のM
AGNUS。しかし、実
際には完全なA全までで
充分なユーザーも多く、
その選択肢としてフル
オートモデルのTREN
DSETTER/ACH
IEVEが「コンパクト
なメイン機」という位置
付けで加わった。昨年は
短期間で2ヶタに迫る受
注があったので、今年も
SONORA XJとの
「合わせ技」でプロモ
ーションを強化し、倍増の
受注を目指したい。
我々は決してCTP市
場が成熟しているとは思
っていない。それを証
明すべく、今春にはIoT
を活用し、稼働状況を

高精度印刷が可能になる
というものだ。このOEM
供給先として日本企業を
含む19社が手を挙げてお
り、すでにULTRA
STREAM評価キット
を提供してテスト開発が
スタートしている。同技
術をベースとした製品は
2019年に発売される
見通しである。